

「アグリッパ王、パウロに興味を持つ」

2016年09月23日

使徒言行録 25 章 13 節～22 節 数日たって、アグリッパ王とベルニケが、フェストゥスに敬意を表するためにカイサリアに来た。彼らが幾日もそこに滞在していたので、フェストゥスはパウロの件を王に持ち出して言った。「ここに、フェリクスが囚人として残っていた男がいます。わたしがエルサレムに行ったときに、祭司長たちやユダヤ人の長老たちがこの男を訴え出て、有罪の判決を下すように要求したのです。わたしは彼らに答えました。『被告が告発されたことについて、原告の面前で弁明する機会も与えられず、引き渡されるのはローマ人の慣習ではない』と。それで、彼らが連れ立って当地へ来ましたから、わたしはすぐにその翌日、裁判の席に着き、その男を出廷させるように命令しました。告発者たちは立ち上がりましたが、彼について、わたしが予想していたような罪状は何一つ指摘できませんでした。パウロと言い争っている問題は、彼ら自身の宗教に関することと、死んでしまったイエスとかいう者のことです。このイエスが生きてると、パウロは主張しているのです。わたしは、これらのことの調査の方法が分からなかったので、『エルサレムへ行き、そこでこれらの件に関して裁判を受けたくはないか』と言いました。しかしパウロは、皇帝陛下の判決を受けるときまで、ここにとどめておいてほしいと願いましたので、皇帝のもとに護送するまで、彼をとどめておくように命令しました。」そこで、アグリッパがフェストゥスに、「わたしも、その男の言うことを聞いてみたいと思います」と言うと、フェストゥスは、「明日、お聞きになれます」と言った。

ユダヤの領主アグリッパ王はマルクス・ユリウス・アグリッパという名で、アグリッパ二世と言われている。ヘロデ王の曾孫で、アグリッパ一世の息子である。アグリッパ一世の死後、若くしてパレスチナ全域を統治した。子どもがなく、「ヘロデ家最後の人」と言われている。ベルニケはアグリッパ二世の一歳違いの妹である。

この兄妹が、新任の総督フェストゥスに表敬訪問をするためにカイサリアに来た。幾日か滞在していた時、フェストゥスがアグリッパにパウロの話を持ち出した。前任の総督フェリクスが囚人として残っていたパウロという男がいる。私がエルサレムに行った時、祭司長たちやユダヤ人の長老たちがこの男を訴え、有罪の判決を下すように要求した。私は、「被告が告発されたことについて、原告の面前で弁明する機会も与えられず、引き渡されるのはローマ人の慣習ではない」と答えた。彼らが連れ立ってカイサリアへ来たので、その翌日、裁判の席に着き、パウロを出廷させるように命じた。彼らは立ち上がり、激しく告発したが、パウロについて、私が予想していたような罪状は何一つ指摘できなかった。パウロを巡る訴えの争点はユダヤ教の宗教に関することである。死んでしまったイエスとかいう者が生きてると、パウロは主張している。これらの問題の調査の方法が分からないので、パウロに「エルサレムへ行き、そこでこれらの件に関して裁判を受けたくはないか」と問うた。しかしパウロは、皇帝陛下の判決を受ける時まで、ここに留めおいてほしいと願い出たので、皇帝のもとに護送するまで、彼を留めおくように命令した。フェストゥスの話を聞いたアグリッパはパウロに興味を持ち、「わたしも、その男の言うことを聞いてみたいと思います」と言った。フェストゥスは、「明日、お聞きになれます」と、アグリッパの願いを聞き入れた。ユダヤの宗教、文化を知るアグリッパの前でパウロは弁明する機会を得ることになった。